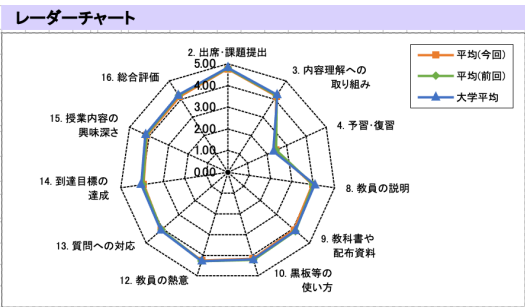


◆ 2025 年度前期授業アンケート

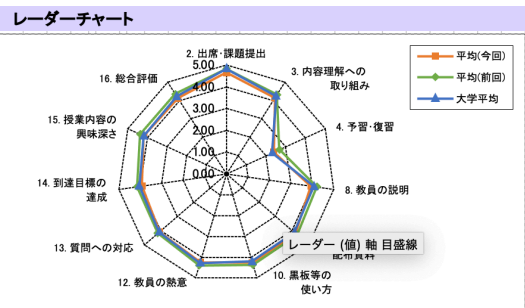
【千住】有効回答率 2024 年度 52.2%⇒2025 年度 60.2% (8.0%増加)



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均 (今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.24	350	415	89	10	10	0
3. 消極参加(4・5)	2.76	2	4	8	1	6	0
14. 達成度高(1・2)	4.39	346	374	40	4	1	0
14. 達成度低(4・5)	2.70	6	7	10	3	14	0

【東京西】有効回答率 2024 年度 58.9%⇒2025 年度 58.5% (0.4%減少)

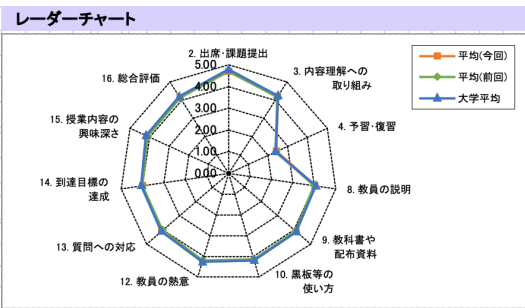


クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均 (今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.22	42	73	12	1	0	0
3. 消極参加(4・5)	3.00	0	0	2	0	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.24	38	62	8	2	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.33	0	1	2	0	0	0

◆ 2025 年度後期授業アンケート

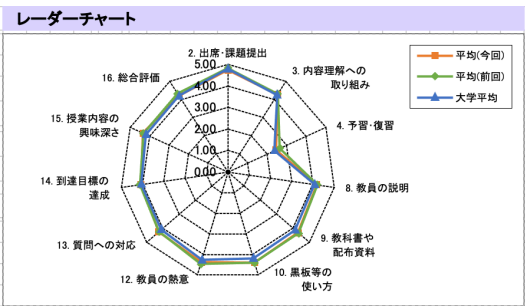
【千住】有効回答率 2024 年度 63.8%⇒2025 年度 52.8% (11.0%減少)



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均 (今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.22	223	314	54	5	8	0
3. 消極参加(4・5)	3.56	1	4	3	1	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.32	218	298	29	4	2	0
14. 達成度低(4・5)	2.96	2	6	9	1	5	0

【東京西】有効回答率 2024 年度 71.1%⇒2025 年度 53.0% (18.1%減少)



クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均 (今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.28	70	80	14	3	1	0
3. 消極参加(4・5)	3.33	0	1	2	0	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.42	69	74	6	0	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.00	0	2	2	0	1	0

生命科学科「授業改善アンケート」2024 年度・2025 年度比較分析

本分析では、千住キャンパスおよび東京西キャンパスについて、2024 年度と 2025 年度の前期・後期をそれぞれ比較した。年度によって履修者数および回答者数が異なるため、主として設問別平均値、肯定的回答割合および回答率の変化に基づいて評価した。

① 2024 年度と比較して、見えてきた 2025 年度の傾向

2025 年度も、「出席・課題提出」「教員の熱意」「教材・配布資料」「ICT・視聴覚資料等の活用」「授業の総合評価」は、両キャンパスとも概ね 4 点以上を維持しており、生命科学科の授業は全体として高い評価水準にある。一方、キャンパス・学期によって年度変化の方向が異なった。千住キャンパスでは、前期は多くの項目が小幅に低下したものの、後期は 11 の得点化項目中 9 項目が上昇した。これに対して東京西キャンパスでは、前期は全 11 項目、後期は 11 項目中 9 項目が低下しており、特に前期の低下が目立った。

学生側の学修行動では、「授業内容を理解するために積極的に取り組んだ」は概ね 4.15～4.32 と高い一方、「予習・復習」は全区分で 2.39～2.68 にとどまった。授業には出席し、授業内では積極的に取り組んでいるものの、授業時間外の主体的な学修には十分結び付いていないという傾向が継続している。また、2025 年度は授業の難易度を「適切」とする割合が低下した。千住前期では 46.9%から 42.6%、東京西前期では 54.7%から 42.8%となり、授業進行速度についても、特に前期で「適切」とする割合が低下している。

② 2025 年度において改善が確認できた点

最も明確な改善がみられたのは千住キャンパス後期である。「質問への対応」は平均 4.012 から 4.096、肯定的回答は 72.4%から 79.6%に上昇した。さらに、「ICT・視聴覚資料等の活用」は 4.144 から 4.197、「授業の興味深さ」は 4.094 から 4.141、「教員の熱意」は 4.201 から 4.246 となり、「総合評価」の肯定的回答も 80.9%から 84.0%へ上昇した。教員による教材提示や学生への対応の改善が、授業評価全体に反映された可能性がある。

千住前期でも、「質問への対応」の肯定的回答が 74.9%から 78.2%へ上昇した。また、回答率が 52.2%から 60.2%へ 8.0 ポイント上昇しており、学生の意見を従来より広く把握できた点も成果といえる。課題量を「適切」とする割合は、千住前期・後期および東京西後期でわずかながら上昇しており、課題設定については概ね適正な水準が維持されている。

生命科学科では、学生の基礎的な読解力と学修能力の向上を目的として、2023 年度後期からリーディングスキルテストおよびその結果に基づく改善プログラムを導入し、継続的な学修支援を行ってきた。「理解するために積極的に取り組んだ」が 4 点を超えていることから、学生の学修に対する意識は一定の水準に保たれている。ただし、今回の集計結果のみから同プログラムの効果を直接判定することはできないため、今後はテスト結果の推移と授業改善アンケート、成績等を関連付けて検証することが望まれる。

③ 学科としての課題

第一の課題は、東京西キャンパス前期にみられた評価低下への対応である。「教員の説明」は 4.208 から 3.941、「到達目標の達成」は 4.146 から 3.921、「総合評価」は 4.359 から 4.125 へ低下した。肯定的回答も、教員の説明で 10.5 ポイント、到達目標の達成で 13.0 ポイント低下している。学生がつまづきやすい内容の把握、専門用語や重要概念の段階的な説明、授業冒頭における到達目標の明示、授業終了時の理解度確認など、授業内で実施可能な改善を学科として共有する必要がある。

第二に、授業時間外学修の促進が全学科的な課題である。リーディングスキルテストと改善プログラムによって育成した読解力を、各授業における予習・復習へ結び付ける仕組みが求められる。例えば、授業前に短い文章や図表を読ませる事前課題、授業後の確認問題、次回授業とのつながりを明示した復習課題などを導入し、その成果を授業内で扱うことで、学修支援プログラムと正課授業を接続することが望ましい。

第三に、難易度および進行速度の適切感が低下しているため、学期途中に独自のアンケートや小テスト等を実施し、学生の理解度を早期に把握して、補足説明や復習機会を設ける必要がある。特に、リーディングスキルテストで把握された学生の読解上の課題を教員間で共有し、教材の文章量、図表の提示方法、課題文の表現等の改善に活用することが有効と考えられる。

なお、2025 年度後期の回答率は、千住で 63.8%から 52.8%、東京西で 71.1%から 53.0% へ低下した。特に東京西後期は 18.1 ポイントの低下であり、年度比較には回答者構成の影響が含まれる可能性がある。結果の代表性を高めるため、授業内での回答時間の確保、実施時期および周知方法の統一も、学科として取り組むべき課題である。

2025 年度授業改善アンケート結果の総括と改善点について

2024 年度と 2025 年度における自然環境学科全体のアンケート結果の比較を行った。2025 年度は、2024 年度と比較して両キャンパスともアンケート回答率の向上が見られた（表 1）。東京西キャンパスでは前期 77.9%から 83.1%、後期 73.9%から 85.4%へ、千住キャンパスでは前期 68.9%から 76.0%、後期 69.4%から 77.9%へと上昇した。回答率の向上により、より多くの学生の意見がアンケート結果に反映されるようになったと考えられる。

東京西キャンパスにおいて 2025 年度前期は、「内容理解への取り組み」、「教員の説明の仕方」、「教員の熱意」、「授業内容の興味深さ」の各項目で評価（平均点）の向上が見られた（表 2）。特に「教員の熱意」は 4.48 から 4.58、「授業内容の興味深さ」は 4.42 から 4.51 へと向上している。一方、「予習・復習」は昨年度とほぼ同程度であった。総合評価も 4.43 から 4.53 へ向上しており（表 4）、全体として高い評価であった。後期については、多くの項目で 2024 年度よりやや低下が見られた。総合評価についても 4.50 から 4.37 へ低下したが（表 3）、依然として高い水準にある。前期と後期で評価に差が見られた要因については、回答率が 2024 年度後期の 73.9%から 2025 年度後期には 85.4%へ大きく向上していることも踏まえ、今後の結果を継続して確認していきたい。

千住キャンパスにおいて 2025 年度は、前期・後期ともに多くの項目で評価（平均点）の向上が見られた（表 3）。総合評価については、前期・後期ともに 4.32 となり、2024 年度の 4.27（前期）、4.24（後期）から向上した（表 4）。特に後期については、各項目の評価が向上するとともに総合評価も上昇しており、全体として授業に対する評価が改善したと考えられる。

自然環境学科は東京西キャンパスと千住キャンパスの両方にあり、原則同じ教員が同じ授業を両キャンパスで実施している。平均点が出されていないアンケート項目に着目すると、例えば「授業を履修した理由」について、「積極参加」に紐づけられる 1 と 2 を選択した学生の割合は、2025 年度の前後期平均で東京西キャンパスでは約 53%、千住キャンパスでは約 47%であり、東京西キャンパスの方が高い傾向が見られており、2024 年度と同様であった。また、「授業の難易度」で「適切」を選んだ学生の割合は、2025 年度の前後期平均で東京西キャンパスでは約 69%、千住キャンパスでは約 59%であり、この点についても、2024 年度と同様に東京西キャンパスの方が高い傾向が見られた。これらの違いが、キャンパスによって総合評価点などに差が生じることに繋がっている可能性が考えられ、今後も着目していきたい。

また、2025 年度は両キャンパスともアンケート回答率が 2024 年度より向上した。したがって、2025 年度に見られた評価の変化については、単純に授業内容や授業方法の変化によるものと判断するのではなく、回答率の向上による影響も考慮しながら、今後のアンケート結果の推移を確認していく必要があると考える。引き続き、各授業においてアンケートへの回答を促す取り組みを継続するとともに、授業内容の理解や興味深さをより多くの学生に実感してもらえよう、学科として授業方法の工夫・改善を進めていきたい。

表 1. アンケート回答率の比較（太字はアップした項目）

	東京西キャンパス		千住キャンパス	
	2024	2025	2024	2025
前期	77.9%	83.1%	68.9%	76.0%
後期	73.9%	85.4%	69.4%	77.9%

表 2. 東京西キャンパスの結果比較（太字はアップした項目）

	前期		後期	
	2024	2025	2024	2025
予習・復習*	2.68	2.67	2.60	2.61
内容理解への取り組み	4.33	4.39	4.41	4.29
教員の説明の仕方	4.38	4.42	4.49	4.27
教員の熱意	4.48	4.58	4.57	4.41
授業内容の興味深さ	4.42	4.51	4.48	4.30

* : 3.0＝平均 1 時間

表 3. 千住キャンパスの結果比較（太字はアップした項目）

	前期		後期	
	2024	2025	2024	2025
予習・復習*	2.35	2.31	2.18	2.39
内容理解への取り組み	4.15	4.19	4.04	4.23
教員の説明の仕方	4.10	4.12	4.06	4.16
教員の熱意	4.31	4.32	4.23	4.28
授業内容の興味深さ	4.23	4.28	4.14	4.30

* : 3.0＝平均 1 時間

表 4. 総合評価の結果比較（太字はアップした項目）

	東京西キャンパス		千住キャンパス	
	2024	2025	2024	2025
前期	4.43	4.53	4.27	4.32
後期	4.50	4.37	4.24	4.32

2025 年度授業改善アンケート振り返り

【総括】

大学全体との比較で平均値に 0.05 以上の差が出た項目としては、「積極的な取り組み」「予習・復習」「質問への対応」「到達目標の達成」の 4 項目が前期・後期ともに低かった一方、「授業の興味深さ」は前期・後期ともに、「説明の仕方」「黒板等の使い方」「教員の熱意」「総合評価」は後期で高かった。

2024 年度と比較すると、前期・後期ともに「積極的な取り組み」「説明の仕方」「教科書や配布資料」「黒板等の使い方」「質問への対応」「到達目標の達成」「授業の興味深さ」「総合評価」の 8 項目で 0.05 以上の上昇が見られた一方、0.05 を超えて減少した項目はなかった。ただし、前期の「予習・復習」については 0.03 減少しており、大学平均との差が拡大した。「予習・復習」の時間をいかに確保させるかは長年の課題と認識してきたことで、2024 年度は改善が見られた項目であったが、今回はそのリバウンドが起きてしまったとも評価できる。

「授業の興味深さ」を中心に教員の取り組みが直接反映される項目では評価が確保できている一方で、「積極的な取り組み」「予習・復習」といった学生の能動性が問われる項目で苦戦していることは、大人数講義が中心であるため個々の学生は受け身に留まりがちという構造的な課題を反映したものと理解できる。

回答率については、両キャンパスともに大学全体よりも低く、特に後期は 46.0%と大学平均 (60.6%) より大幅に低い結果に留まった。ただし、2024 年度の回答率は前期が千住 44.9%、東京西 44.0%、後期は千住 48.0%、東京西 47.3%であったのに対し、2025 年度前期は 60.0%を確保できており、前期に関しては大幅に改善したと言える。

【今後に向けての改善策】

大学全体との差異は、学科の人数という構造的な原因によるところが大きいと思われるが、2024 年度に改善した「予習・復習」が再び低下してしまったので引き続き改善に努めつつ、実習科目を中心として学生の積極的な取り組みを引き出すなど一層のアクティブラーニング導入を進めたい。

回答率については前期で大幅な改善が図られた一方で、後期では改善が見られなかったので、引き続き授業時間中に回答時間を確保できるよう努力を重ねたい。

2025 年度授業改善アンケートの学科振り返り

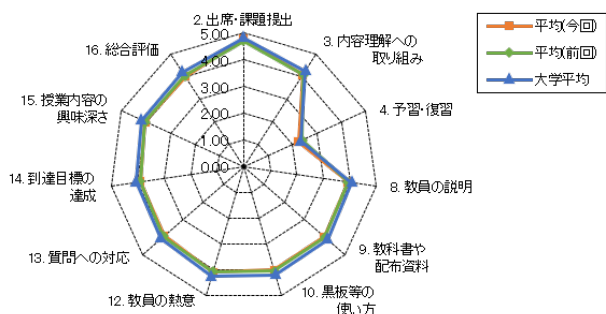
1. 2025 年度前期・後期授業改善アンケート回答率

2025 年度における授業改善アンケート実施の結果、回答率は前期：70.2%、後期：77.4%であった。

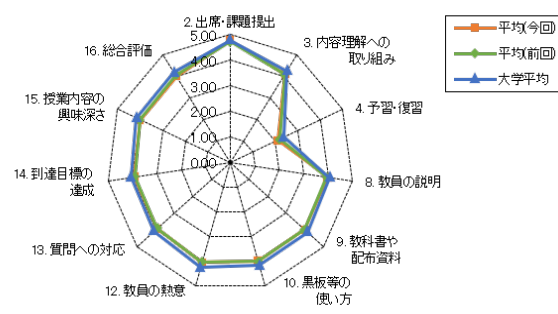
2024 年度に続き授業改善アンケートの実施については、当該授業時間内での実施とは別に、各学年担当教員らによって学年別にも学生に対して授業改善アンケートへの回答機会を設け、回答を促す取り組みをおこなった。しかし、2025 年度後期については前年度とほぼ同程度の回答率を維持したものの、前期については前年度より低下する結果となった。

授業改善アンケートは、学生からの意見を把握し、授業内容や教育方法の改善につなげるための重要な機会であることから、今後も授業時間内で回答する機会を確保するとともに、学年担当教員等から学生への回答を促すなど、回答率を一定水準以上に維持するための取り組みを学科全体で継続していく必要がある。

2. 2024-2025 年度 理学療法学科 授業改善アンケート結果と分析



2025 年度前期



2025 年度後期

項目	アンケート内容	前期			後期		
		2025年度大学	2024年度	2025年度	2025年度大学	2024年度	2025年度
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.83	4.72	4.80	4.78	4.73	4.79
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.25	4.10	4.09	4.25	4.08	4.13
4	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.32	2.40	2.25	2.38	2.20	2.12
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	4.08	3.93	3.94	4.07	3.95	3.97
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	4.14	4.01	3.98	4.14	3.99	4.00
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	4.21	4.06	4.02	4.18	4.02	4.00
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.28	4.09	4.10	4.27	4.05	4.07
13	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。	4.10	3.96	3.94	4.09	3.91	3.93
14	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	4.05	3.90	3.91	4.06	3.89	3.92
15	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.19	4.05	4.04	4.18	4.02	4.01
16	この授業の総合評価を5段階で評価してください。	4.22	4.04	4.03	4.19	4.06	4.03

2025 年度の「学科」と「大学」の平均値の差は、前期においては平均 0.14 ポイント、後期においては平均 0.15 ポイントであり、多くの項目において学科平均が大学平均をやや下回る結果となった。一方、学科内における 2024 年度と 2025 年度の結果を比較すると、各項目の平均値の差は前期で平均約 0.03 ポイント、後期で平均約 0.03 ポイントであり、全体として大きな変化は認められなかった。

また、「出席・課題提出」は前期 4.80、後期 4.79 と高値を示し、「内容理解への取り組み」「教員の熱

意」「授業内容の興味深さ」「総合評価」などについても概ね 4.0 ポイント前後を維持していた。以上のことから、2025 年度においても授業における教育の質については、前年度と概ね同程度の水準を維持できていたものとする。

(1) 前年度からの平均値の変化が 0.1 ポイント未満の項目について

2024-2025 年度の授業改善アンケート結果を比較すると、後期については全項目で前年度との差が 0.1 ポイント未満であり、大きな変化は認められなかった。また、前期についても「予習・復習」を除く項目では 0.1 ポイント未満の変化であった。特に「出席・課題提出」は前期 4.80、後期 4.79 と高値を示しており、学生の授業への参加状況については良好な状態が維持されていると考えられる。また、「内容理解への取り組み」や「教員の熱意」「授業内容の興味深さ」「総合評価」についても 4.0 ポイント前後を維持している。これらは学習指導および授業運営における重要な項目であるため、今後も学生への学習指導を継続するとともに、各教員が授業方法や教材等について振り返りを行い、より良い授業につなげていく必要性を学科内で共有することが求められる。

(2) 前年度から平均値が 0.1 ポイント以上変化した項目について

2025 年度前期では、項目 4 について、2024 年度の 2.40 ポイントから 2025 年度は 2.25 ポイントとなり、0.15 ポイント低下した。後期については、2024 年度 2.20 ポイントから 2025 年度 2.12 ポイントとなり、低値が継続しているものの、前年度との差は 0.1 ポイント未満であった。予習・復習時間については、2024 年度の学科振り返りにおいても大学全体と同様に低値であることが課題として挙げられ、学科全体で改善に向けた協議が必要であるとされていた。2025 年度においても改善には至っておらず、特に前期では前年度よりさらに低下したことから、授業時間外学修の促進は継続して取り組むべき学科の課題であるとする。今後は、単に学生に予習・復習を促すだけでなく、各科目において授業内容と関連した事前・事後課題を設定することや、次の授業内容との関連性を明確にすることなど、学生が授業時間外の学修に取り組みやすい授業方法について検討する必要がある。

また、2024 年度には一部学生における授業欠席数の超過が課題として挙げられ、担当教員と学生助言教員が出席状況を共有しながら学生指導を行うことの必要性が示されていた。2025 年度のアンケートでは「出席・課題提出」が前期 4.80、後期 4.79 と高値を示していることから、学科全体として学生の授業への参加状況を引き続き把握し、多欠等がみられる学生については早期に情報共有を行い、必要な学修支援につなげる体制を継続していくことが重要であるとする。

3. 今後に向けた理学療法学科の改善策

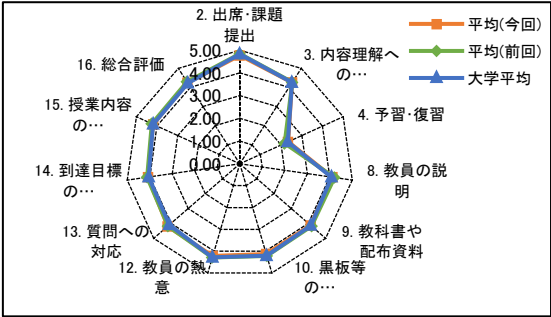
2025 年度の授業改善アンケート結果から、出席・課題提出、授業内容を理解するための取り組み、教員の熱意、授業内容への興味、総合評価等については前年度と概ね同程度の評価を維持しており、授業環境および教育内容について一定の水準を維持できていたとする。

一方、予習・復習をはじめとする授業時間外学修については継続した課題となっている。今後は学生自身に授業時間外学修の必要性を理解させるとともに、事前・事後課題の提示方法や授業との関連性、課題量等について各教員が振り返り、学生が自主的に学修に取り組みやすい教育方法を学科内で検討していく必要がある。

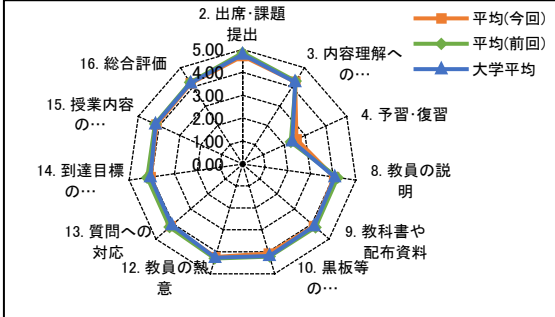
引き続き、授業改善アンケートに寄せられた学生の声に真摯に向き合い、アンケート結果を教育改善のための資料として活用するとともに、結果の把握・分析、改善策の検討、改善後の評価という一連の取り組みを継続し、より良い授業および教育環境を提供できるよう学科として取り組んでいきたい。

2025 年度 授業改善アンケート振り返り

【総括】



2025 年度 前期



2025 年度 後期

項目	アンケート内容	前期			後期		
		大学平均	2024年度	2025年度	大学平均	2024年度	2025年度
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか	4.83	4.84	4.77	4.78	4.86	4.71
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか	4.25	4.27	4.26	4.25	4.30	4.26
4	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか	2.32	2.16	2.33	2.38	2.32	2.59
8	教員の説明の仕方は分かりやすいものでしたか	4.08	4.21	4.12	4.07	4.20	4.04
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか	4.14	4.18	4.13	4.14	4.22	4.13
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか	4.21	4.22	4.13	4.18	4.21	4.08
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.28	4.29	4.22	4.27	4.30	4.23
13	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか	4.10	4.18	4.20	4.09	4.21	4.14
14	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか	4.05	4.12	4.08	4.06	4.20	4.05
15	この授業の内容は興味深いものでしたか	4.19	4.26	4.19	4.18	4.20	4.13
16	この授業の総合評価を5段階で評価してください	4.22	4.30	4.24	4.19	4.23	4.19

2025 年度のアナケート結果について、2024 年度と比較して回答率は前期 64.4%（2024 年 62.7%）、後期 72.3%（2024 年 71.7%）であり、2025 年度は前年度（2024 年度）より前・後期共に改善がみられた。

結果の項目については、前年度よりも多くの項目がわずかに退歩しており、総合評価（項目 16）も前・後期共に前年度よりも若干下回る結果となったものの、大学平均より前期は上回り、後期は同程度となっており、また前・後期平均 4.0 ポイントを超える高値を示す項目の多くは変化が見られなかったものと考えられる。今後も高値となるように学生指導、教員の授業方法などの振り返りなどを継続する必要性を学科内にて共有することが求められる。

【課題と改善策】

■回答率を 90%にする。

回答率の低さは、授業時間内に QR コードを提示し、可能な限り教室で回答してもらう取り組みをした結果、上述のように前期・後期共に大きく上昇した。それでも回答率は前期・後期 6～7 割程度であり引き続き改善を目指す必要がある。

■予習・復習の平均時間を「全くしていない」の数を減らす。

項目 4「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか」の設問について、前・後期共に昨年度よりも上昇していた。しかし⑤「全くしていない」が 2025 年度回答者数の前期 (29.2%)、後期 (16.2%) であった。これについては、少しの時間でも良いので予習・復習をしてもらうよう対策が必要である。まずは、復習をするよう担当科目の教員が学生に促す必要がある。

→具体的には、授業時間外の学習として何をすべきかわからない学生のために、予習・復習については自主性に任せるだけではなく、こういうことは調べた方がよい、覚えておいた方がよい等、予習・復習の内容や方法についても提示する。作業療法学科教員室には、専門教室や検査器具などの貸し出し申請用紙 (ファイル) があり、申し出があれば個人でもグループでも借りることができることを引き続き周知し、空き時間を有効に活用することで予習・復習の時間を確保することを促していく。

■到達目標の達成の上昇

項目 14「あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか」では、2025 年度後期 4.05 であり、前年度 (2024 年度 4.20) より 0.1 ポイント以上平均ポイントの減少が認められた。

→初回の授業や毎回の講義の中で明確化し、授業内容の理解度を確認しながら、必要な学生には補習をすることで、すべての学生が到達目標を達成することを目指す。

以上より、授業改善アンケートに寄せられた学生の声を参考に、よりよい授業が提供できるように学科として真摯に向き合い、取り組んでいきたい。

授業改善アンケート(2025)結果に対する総括

【はじめに】

2025 年度授業改善アンケートの結果について、2025 年 3 月に学科で実施した学生アンケートの結果と照らし合わせながら検討を行った。

【総括】

2-1. アンケート結果の概要

8 項目の設問について検討したところ、すべての項目で昨年度よりわずかながらポイントの低下がみられた（表 1）。

表1. 2025授業改善アンケート 検討設問項目

Q	設 問	2024年	2025年
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.75	4.70
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.26	4.08
4	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.37	2.23
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	3.99	3.81
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.15	3.99
14	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	4.03	3.79
15	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.10	3.89
16	この授業の総合評価を5段階で評価してください。	4.07	3.90

学生は、授業への出席や課題提出、授業内容の理解に向けた取り組みについては概ね積極的である一方、授業内容への興味や到達目標の達成度については不十分であると捉えており、結果として授業の総合評価が昨年度より低下した。また、学生は授業には積極的に参加しているものの、予習・復習をほとんど行っていない現状が明らかとなった。授業のみで内容を理解することが困難であったことが、評価低下の一因と推察される。

2-2. 予習・復習が進まない背景

学科アンケートによると、予習・復習ができない理由として以下が挙げられた。

1～3 年生：アルバイトのため時間がない（51%）、やる気が起きない（48%）。

4 年生：やる気が起きない（28%）、アルバイトのため時間がない（24%）、睡眠不足（24%）。

アルバイトをしている学生は全体の 81.5% にのぼり、国家試験を控えた 4 年生でも 76% と高率であった。これらの結果から、アルバイトが予習・復習の機会を制限している可能性が高い。また、「やる気が起きない」という回答については、アルバイトによる疲労、授業内容の理解不足、学習到達度の低さなどが複合的に影響していると推測される。加えて、将来の職業イメージの不明確さ、国家試験の難易度に対する自覚の不足、学科選択時のミスマッチといった要因も考慮する必要がある。

2-3. 欠席と学業成績の関連

学科資料によると、授業の欠席率が高い学生（平均 28%）ほど、定期試験の再試験率、休学率、退学率が高い傾向がみられた。欠席理由としては、体調不良（68%）、睡眠不足・起床困難（15%）、が上位を占めている。体調不良の背景には、生活習慣の乱れ、アルバイトによる疲労、睡眠不足などが影響している可能性が高い。

2-4. 授業改善の取り組みと今後の課題

昨年度は授業改善アンケートの結果を踏まえ、教員に対して以下の点を周知し、改善を促した。

1)熱意をもった授業運営、2)学生の理解を促す分かりやすい説明、3)資料の配布と効果的な活用、である。特に理解が進みにくい基礎医学科目（生理学、解剖学、公衆衛生学等）では、担当教員が授業方法の改善に積極的に取り組んだ。しかし、教授法や教員の熱意、授業への興味、到達度に関する評価は、昨年度よりわずかに低下した。この結果を真摯に受け止め、教員側のさらなる授業改善が求められる。教授方法については、必要に応じてゼロベースで見直しを行うことが重要である。一方で、前述のとおり学生側にも多くの学習阻害要因が存在していることから、授業改善は教員側の努力だけでなく、学生の生活習慣や学習環境への支援といった包括的な視点で取り組む必要がある。

以上

2025 年度 授業改善アンケート結果について

【総括】

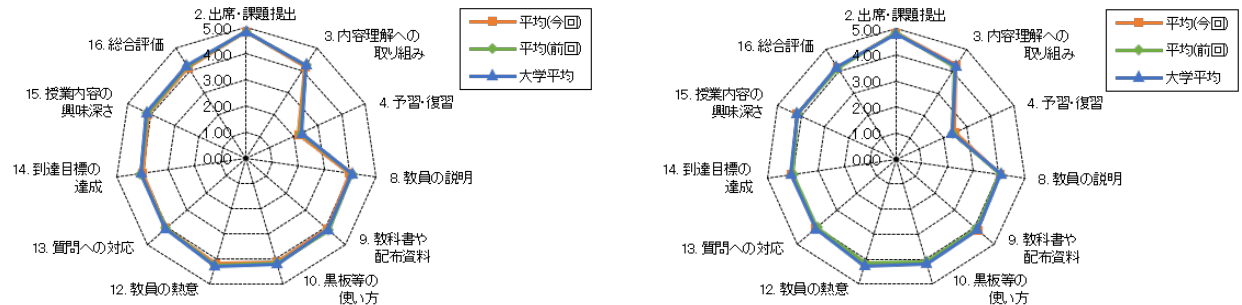


図 授業改善アンケート結果集計 レーダーチャート(左図:前期 右図:後期)

■授業方法について

[良かった点]

・アンケート回収率の改善

昨年度より、アンケート回収率に改善がみられた。しかし、依然として十分な水準とはいえない [前期 69.2% 後期 59.6% (2024 年度) → 前期 72.2% 後期 67.2% (2025 年度)]。今後も、授業内での周知方法や実施形態を改善し、学生が負担なく回答に取り組める環境を整備する。

・授業に対する総合評価の維持

授業に対する満足度は、引き続き高い水準 [前期 4.10、後期 4.18 (2025 年度)] を維持している。実践的授業や専門性に基づく学修機会の継続的な提供することは、学生の主体的学習態度や専門知識の定着につながると考えられるため、今後も教育の質の向上に不可欠な要素であると考えられる。

[改善点]

・前期科目における授業積極性の低下

全般的に評価値が微減しており、「授業内容を理解するため積極的に取り組んだ」ではわずかに低下がみられた [4.25 (2024 年度) → 4.17 (2025 年度)]。各項目において授業内課題の設計や活用方法についての工夫を行っているが、今後さらに学生の主体的な学修を促す取り組みが必要であり。

・後期科目における教員対応の検討

教員の説明の分かりやすさ [4.07 (2024 年度) → 4.04 (2025 年度)]、教員の熱意 [4.27 (2024 年度) → 4.22 (2025 年度)] などの項目は高い水準は保つものの年々低下傾向を示している。今後は、各科目の学修目標や内容の特性に応じた教育手法を工夫し、学生の理解度や授業満足度の向上を図る必要がある。

・自己学習時間の不足

「30 分以下または全くしていない」と回答した学生が、依然として半数以上を占めている。そのため、授業内外における実技練習への支援や、学生の理解度に応じた課題の提示などを通じて、授業外学修の機会を充実させる必要がある。これらの取り組みにより、基礎知識の定着と専門職教育の質の向上を図る。

■授業環境について

[良かった点]

・教材活用の効果

黒板・プロジェクター・資料・動画などの利用は引き続き高い水準を維持している[4.11－4.16（2024年度）→4.11－4.12（2025度）]。Web class や動画コンテンツなどのデジタル教材の提供は、学生の主体的学習を促し、授業外学修を補完する教育資源として一定の効果が保たれていると捉えられる。継続的な導入が教育の質の向上に資するものと考えられる。

[改善点]

・質問しやすい環境づくり

「授業時間内外の質問対応」は前年度よりは微増傾向[4.00－4.06（2024 年度）→4.06－4.08（2025年度）]であるが、大学全体の平均を下回っている。学生が主体的に学修課題へ取り組むためには、質問しやすい環境の整備や、質問内容に応じた適切な指導方法の工夫が重要であるため、改善に努める。

■今後に向けた改善策について 学生へのメッセージ

[科目に対する意見について]

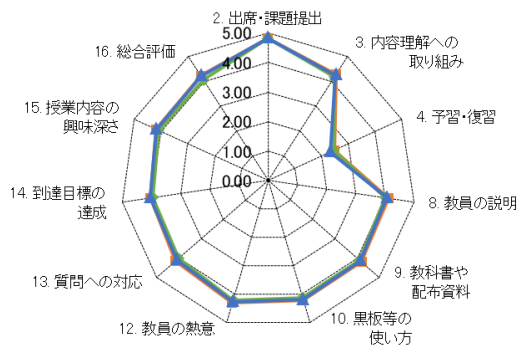
- ・ 各科目において、授業内容をより理解しやすくするため、視覚教材や配布資料などの学修ツールをこれまで以上に活用していきます。
- ・ 専門知識への理解を深めるため、以下の点を意識して授業外学修に取り組んでください。
 - ① 授業内容の理解が十分でない要因の一つとして、授業外学修時間の不足が考えられます。教科書や授業資料だけでなく、大学図書館などの学内施設も活用し、予習・復習を含めた主体的な学修に取り組んでください。
 - ② 「勉強の仕方が分からない」「専門用語が難しい」と感じている学生も少なくありません。分からない内容をそのままにせず、助言教員や科目担当教員へ積極的に相談し、自分に合った学修方法や学修習慣を身につけてください。
 - ③ シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認したうえで、興味・関心のある分野には積極的に取り組んでください。また、理解が十分でない授業内容をそのままにせず、些細なことでも構いませんので、科目担当教員などに相談する習慣を身につけてください。

[授業の進行について]

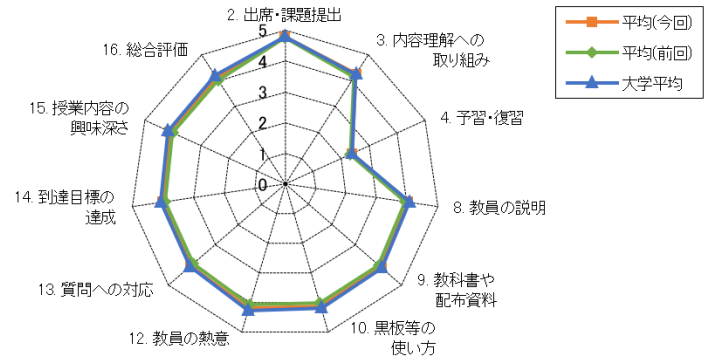
- ・ 授業内容をより理解しやすくするため、適切な板書、スライド、資料提示などを工夫していきます。
- ・ 必要に応じて、WebClass を活用した授業資料の提示やリフレクションシートなども取り入れていきますので、学生の皆さんも積極的に活用してください。
- ・ 課題への取り組みや授業外学修は、授業内容の理解を深めるうえで重要です。以下の点について確認してください。
 - ① 課題レポートなどの提出物は、提出期限を厳守し、指示された形式に従って提出してください。
 - ② 休み時間や授業の空き時間には、授業で使用していない場合に限り実習室を利用できます。積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。
 - ③ 学修面について教員へ相談する学生は徐々に増えています。質問や意見などは学科教員が随時対応していますので、分からないことや困っていることがあれば、遠慮せずに声を掛けてください。

2025 年度授業改善アンケート結果に対する学科の振り返り

【2025 年度前期】



【2025 年度後期】



【総括】

2025 年度授業改善アンケートの回答率は、前期 67.8%、後期 77.4%であった。

アンケートの結果は、2024 年度に比べて前期 11 項目「授業への出席または課題提出」「内容理解への取り組み」「予習・復習の平均時間」「教員の説明の仕方」「教科書や配布資料」「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」「教員の熱意」「教員の質問への対応」「到達目標の達成度」「授業内容の興味深さ」「総合評価」、後期 11 項目「授業への出席または課題提出」「内容理解への取り組み」「予習・復習の平均時間」「教員の説明の仕方」「教科書や配布資料」「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」「教員の熱意」「教員の質問への対応」「到達目標の達成度」「授業内容の興味深さ」「総合評価」において高い値となり、2024 年度に比べて低い値となった項目は前期・後期ともに存在せず、回答率自体も 2024 年度に比べて前期 3.8%、後期 2.8%高い値となった。

学習支援 PDCA サイクル改善目標の 1 つ「予習・復習の平均時間」の項目を見ると、予習、復習を「全くしていない」と回答した学生は前期において 2024 年度前期（23.1%）から 2025 年度前期（22.0%）、と減少しており、これは 2022 年度前期（32.7%）、2023 年度前期（25.5%）と併せて比較すると確実に減少している。後期については 2024 年度後期（27.4%）から 2025 年度後期（28.1%）と増加しており、これは 2022 年度後期（29.9%）、2023 年度後期（27.7%）と比較してはつきり増加傾向にあるとも言えないが、以前から後期は予習・復習をしない学生が前期に比べて増加する傾向にあり、これは進級直後の緊張感がある前期こそ予習・復習をよくするものの、定期試験や夏季休暇を経て勉強の意欲とモチベーションに低下が生じるためと考えられる。教員側からの注意は前期によく行われるため前期の予習・復習は年々怠る学生が減少しているものの、夏季休暇中や後期開始直後については教員から特に注意を促す機会が多くないため実際の後期における成績低下のデータ教示など、後期も前期と同様に予習・復習を怠る事なく過ごすよう入念な注意が必要と考える。

「授業への出席・課題提出」の項目を見ると「ほとんど出席した」と回答した学生が 2024 年度前期

(83.3%)、後期(81.4%)から2025年度前期(85.8%)、後期(85.0%)と増加している。これは以前欠席率の高かった2023年度、2024年度の入学学生が上位学年になり、当初からモチベーションが低かった学生が自主退学を行い、残った学生も危機感を強く持つ事になったためと考えられる。卒業率や国家試験合格率の向上のためには授業への欠かさぬ出席が不可欠であり、そのためには柔道整復師の取得へのモチベーションを喚起するため資格としての魅力と努力の必要性を引き続きアドバンスセミナー等で提唱し続けていく必要がある。

【今後について】

■改善がみられている項目は、学生の理解度を高めるように工夫をして授業を行うなど、さらに良い結果につながるよう努めていく。

■予習・復習の時間が後期に低下する問題については、後期に勉強時間を減らした学生の成績がどうなったか、卒業・国試合格まで至った例がどれくらいの数だけ存在するかを提示するなど、学生の気の緩みを引き締める施策を考案する。

■授業への出席・課題提出については良い傾向にあるが、今後も引き続きアドバンスセミナーなどで欠席の多い学生に授業出席を促しつつ、保護者との連絡も更に緊密にする事によって早期から細やかな対応を試みる。

2025年度 授業改善アンケート結果のまとめ

○レーダーチャート

前期は50科目の回答率68.7%（2024年度57.9%）、後期は29科目の回答率67.5%（2024年度56.1%）に対して授業改善アンケートが実施された。レーダーチャート(図1、2)をみると、前期後期で大きな変化はなく、多くの項目で得点は大学平均と同等であった。他の項目に比べ得点が低い予習・復習に関しては、大学平均を僅かに上回り、2024年度と比較してもやや上昇していた。

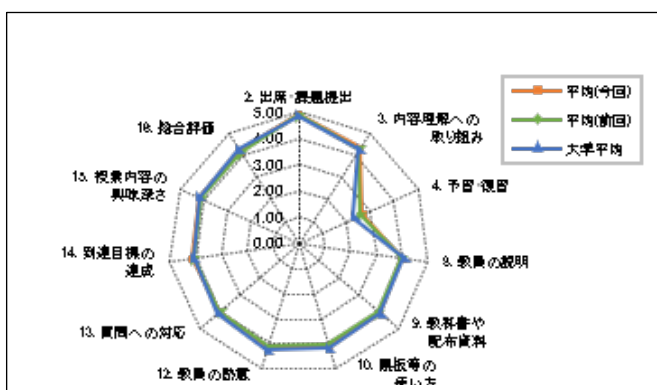


図1. 前期アンケート結果レーダーチャート

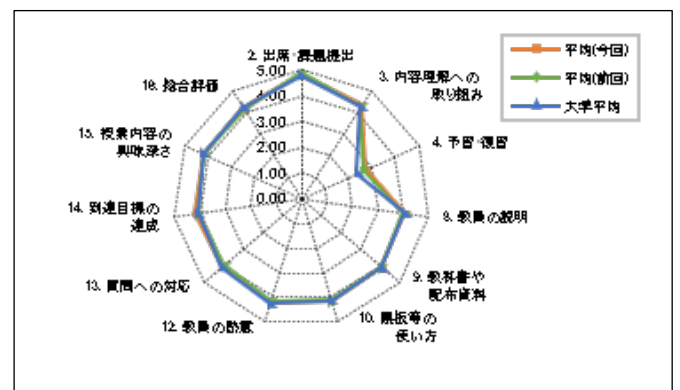


図2. 後期アンケート結果レーダーチャート

○自由回答

【肯定意見の例】

「教員自身の体験談などを交えて講義をしてくれたので具体的にイメージすることができた」

「質問に丁寧に分かりやすく説明してくれた」「時間外の質問にも答えてくれた」

「スライドと配布資料が分かりやすかった。うるさい人にしっかり注意をしてくれてありがたかった」

「図や表を使っでの説明が分かりやすかった」「動画（映像）があり、理解しやすかった」

「授業内の（教員からの）質問により、一人ひとりの意見を聞くことで新たな知識が身についた」

「リアクションペーパーが授業の内容を整理するうえで役立った」

「先生が楽しそうに授業をしてくださるのを見て、こちらも興味を持って学ぶことができた」

「学生が知りたいことについてアンケートをとり、その内容を取り入れてくれた」

「先生の声が明るくハキハキとして、とても聞き取りやすく、楽しい授業だった」

「レポート題材が新鮮で書いていて楽しかった」「課題の提出期限を考慮してくださりととても良かった」

「授業内でのグループワークや自分で考える時間があったことが良かった。自分で考えることで予習・復習をする気持ちになった」

など、上記以外にも多数の肯定意見がアンケートに記載されていた。

[是正意見の例]

「黒板の文字が小さく、もう少し大きく書いて欲しい」

「スライドを進めるのがはやくメモができなかった、もう少しゆっくり進めて欲しい。」

「授業資料は Web Class にあげてほしい、データで欲しい。」

「課題量が多い。」「課題の提出期限が前倒しされ困った。変更する場合は1週間までに知らせてほしい。」

「時間内で授業を終わらせて欲しい」「授業時間内に授業範囲が終わらなかった（途中までで終了）」

「教員の発言が厳しく自信を無くしてしまう。もう少し優しく具体的にアドバイスをして欲しい」

「教員によって説明が違って戸惑った。統一して欲しい」「教員によって評価の基準が違う」

などの是正意見がアンケートに記載されていた。

○授業改善アンケート結果からの考察

- ・レーダーチャートから予習・復習が低くなっているが、課題が多いためと推測でき、予習・復習ではないが授業以外でも学修していることがうかがえる。
- ・教員が熱意をもって授業を行うことや、教員の臨床経験をふまえた授業内容は実際の場면을想像しやすく、学生の興味や関心を高めるとともに、理解も深まる。
- ・動画等、視覚教材を用いると、学生が理解しやすく興味や関心を持って学修できる。
- ・授業中の質問や授業後の質問など、教員と学生間でコミュニケーションを図ることが、より良い学修や学生の満足につながっている。

- ・教員間の指導の差や情報共有不足などに対して、学生が不満を感じているため、担当教員間での事前打ち合わせを密にしておくことや、学生への丁寧な説明が必要である。
- ・課題を前向きに実施している学生がいる一方で、課題量や提出期限を負担に感じている学生もいるため、今後も課題内容や量の検討をすることと負担に感じている学生へのサポートが必要である。
- ・授業資料について電子データを希望する声が多いため、なるべく Web Class にアップすることを検討していく。それによって図表等がカラーで確認可能となり内容の理解が深まることや、自主的な学修（予習や復習）が促進される可能性がある。
- ・注意や指摘をされることに慣れていない学生にとっては、教員の発言を必要以上に厳しく感じる可能性があるため、指導する際の言葉に配慮していく必要がある。
- ・黒板の文字が見にくいという意見が続いているため、改善策を検討する必要がある（対応済み）。

1. 2025 年度, 前期・後期授業改善アンケート結果

「大学平均」「学科前回（2024 年度）平均」「学科今回（2025 年度）平均」を、表 1 にまとめた。

2024 年度は「大学平均」より低かったのが前期 6 項目、後期 1 項目あり、授業評価の悪化が課題であったが、2025 年度は前期 1 項目（設問 2）、後期 2 項目（設問 2・12）となった。前期は大幅に改善した一方、後期は設問 2（出席・課題提出）に加えて設問 12（教員の熱意）が新たに大学平均を下回った。

また、2024 年度と 2025 年度の学科平均を比較すると、前期は全 11 項目で上昇し明確な改善傾向が見られる一方、後期は 7 項目で前回比マイナスであり、前期の改善が後期には十分に波及していない。

表1 2025 年度 授業改善アンケート結果分析(医療福祉学科)

設 問		<2025 年前期>			<2025 年後期>		
	(平均点の点数は①=5 点、②=4 点、③=3 点、④=2 点、⑤=1 点)	大学 平均	平均 (前回)	平均 (今回)	大学 平均	平均 (前回)	平均 (今回)
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ①ほとんど出席した ②3 分の 2 程度出席した ③半分程度出席した ④3 分の 1 程度出席した ⑤ほとんど出席しなかった	4.83	4.76	4.80	4.78	4.76	4.74
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.25	4.25	4.33	4.25	4.33	4.33
4.	1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ①3 時間以上 ②2 時間 ③1 時間 ④30 分以下 ⑤全くしていない	2.32	2.42	2.45	2.38	2.41	2.45
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.08	4.03	4.23	4.07	4.15	4.11
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.14	4.10	4.24	4.14	4.16	4.17
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.21	4.17	4.30	4.18	4.24	4.22
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.28	4.24	4.37	4.27	4.32	4.23
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.10	4.07	4.24	4.09	4.17	4.16
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.05	4.02	4.15	4.06	4.11	4.12
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。 ①強くそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない	4.19	4.10	4.25	4.18	4.20	4.20
16.	この授業の総合評価を 5 段階で評価してください。 ①とてもよい ②よい ③どちらともいえない ④悪い ⑤とても悪い	4.22	4.12	4.28	4.19	4.24	4.20

*黄色マークは大学平均より低い項目

2. 今後の課題

前期においては、前年度報告書で課題とした設問 15（興味深さ）・16（総合評価）が 4.10→4.25、4.12→4.28 と大きく改善し、いずれも大学平均を上回った。他の項目も設問 8（教員の説明、+0.20）、設問 13（質問への対応、+0.17）を中心に上昇しており、説明方法や資料の工夫、質問対応の充実といった各教員の取り組みの成果といえる。残る課題は設問 2（出席・課題提出）であり、2024・2025 年度の 2 年連続で大学平均をやや下回っている。

後期においては、設問 2（出席・課題提出）が 2023 年度から 3 年連続で大学平均をやや下回っている。授業開始早期に科目の出席状況を教員間で共有し、出席回数を増やす取り組みを継続するとともに、課題の提出時期を分かりやすくアナウンスし、提出が滞りがちな学生には適宜声かけを行う。

設問 12（教員の熱意）は、後期に前回比-0.09 と下げ幅が最も大きく、今回新たに大学平均を下回った。ただし同年度の前期は 4.37 と大学平均を上回っており、学科全体の傾向というより後期の一部科目の影響と考えられる。各教員が自身の科目の後期結果（特に設問 12）を確認し、リアクションペーパーへの返答や中間フィードバックなど、学生が熱意を感じやすい工夫を取り入れていく。

2025 年度 授業アンケート振り返り

【総括】

大学の平均値と比較しながら、本学科の状況を捉えた。比較可能な設問を表にまとめると、ほぼすべての項目で大学平均と同等か上回っている結果であった。また、設問 2 以外は、4.5 を上回る高い値を示しているため、今後もこの値を維持することを目標としていきたい。一方、設問 4 の予・復習時間については大学平均より高いが、低い値となっている。特に予復習を「全くしていない」と回答した学生は、前期・後期とも約 20% となっていた。本学科の学生は多くは保育者・教育者を志している。そのため、学びに向かう姿勢を自覚させることが、最も優先すべき取組である。

表 2025 年度 授業改善アンケートにおけるこども学科の結果

設問		2025 前期			2025 後期		
		大学 平均	平均 (前回)	平均 (今回)	大学 平均	平均 (前回)	平均 (今回)
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.83	4.73	4.81	4.78	4.72	4.84
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.25	4.39	4.65	4.25	4.53	4.66
4	1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.32	2.66	2.72	2.38	2.65	2.74
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	4.08	4.20	4.50	4.07	4.44	4.47
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	4.14	4.24	4.51	4.14	4.43	4.52
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	4.21	4.24	4.54	4.18	4.44	4.51
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.28	4.31	4.55	4.27	4.47	4.55
13	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。	4.10	4.23	4.55	4.09	4.44	4.53
14	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	4.05	4.22	4.50	4.06	4.38	4.50
15	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.19	4.31	4.58	4.18	4.48	4.56
16	この授業の総合評価を 5 段階で評価してください。	4.22	4.37	4.61	4.19	4.54	4.54

【今後の課題】

アンケート結果からは、授業の実施状況について概ね好評価が得られている。しかし、本学科の授業の特徴として、実技を伴う内容が多くあることを踏まえると、このアンケート結果の好評価だけで学生のニーズに対応できていると捉えるのは早計ではないかと考える。また、設問 10 に ICT 機器の活用に関する問いがあるが、今後の教育現場での活用実体が大きく変化していくことを踏まえ

るとそのニーズも変化することが予想されるため、現状に甘んじることはできない。学科として動向を把握し共有する場が必要だと言える。そして、学科として何を目指して教育活動を行うかを明確にし、授業へ反映させていくことを検討することが早急の課題である。

2025 年度 授業改善アンケート結果に対する学科幼児保育学科の振り返り

【2025 年度前期】				【2025 年度後期】			
	大学平均	前回平均	今回平均		大学平均	前回平均	今回平均
出席・課題提出	4.83	4.81	4.80		4.78	4.75	4.74
内容理解への取り組み	4.25	4.39	4.34		4.25	4.34	4.37
予習・復習	2.32	2.09	2.12		2.38	2.19	2.28
教員の説明	4.08	4.10	4.04		4.07	4.10	4.10
教科書や配布資料	4.14	4.17	4.11		4.14	4.10	4.14
黒板等の使い方	4.21	4.20	4.16		4.18	4.14	4.17
教員の熱意	4.28	4.28	4.20		4.27	4.25	4.30
質問への対応	4.10	4.16	4.09		4.09	4.12	4.14
到達目標の達成	4.05	4.17	4.13		4.06	4.16	4.18
授業内容の興味深さ	4.19	4.22	4.15		4.18	4.18	4.22
総合評価	4.22	4.19	4.15		4.19	4.16	4.24

1. 2025 年度学科と大学の平均値の比較

2025 年度の学科と大学の平均値を比較すると、「予習・復習」についての設問以外には 4.13～4.80 の間で数値の分布傾向は同程度であった。特に予習・復習は大学平均のように低い値で同様の分布傾向である。また数値は大学平均より昨年度に引き続き、低い値である。

設問ごとの平均値の高低でみると、2025 年度前期については、大学平均と比較して、高い項目、低い項目がある。後期に関して見ると、「予習・復習」「黒板等の使い方」「教科書や配布資料」を除き、残りの全項目は大学全体より高い。後期の結果は、学生が授業内容を理解するために積極的に取り組んだこと、到達目標を十分に達成できたことが評価されると思われる。

2. 2025 年度と前年度（2024 年）の学科の平均値の比較

前期は、「予習・復習」を除いて 2024 年度の方が高かった。中でも「教員の熱意」の項目については下がり幅が最も多い 0.08 であった。この点については他に「質問への対応」及び「授業内容の興味深さ」が 0.07 下がっている。

それに対して後期の科目は「出席・課題提出」の項目が 0.01 下がったが、それ以外の項目については横ばい、あるいは上昇であり全体的に改善傾向が見られる。

前回の課題であった「予習・復習」については、前期・後期共に前年より上がっており改善傾向が見られる。

3. 今後の課題

「予習・復習」の時間が少ないことについて改善していく必要がある。学科の特性からも演習、実技科目や実習指導の授業の準備等に予習・復習の時間を充当する点を学生に伝える指導が必要と思われる。具体的には、どれを復習とするか、予習とするかの内容の統一を学科で図り、学生に伝える事が必要であ

り、次回は是非そちらを実施してから調査に臨むように図りたい。

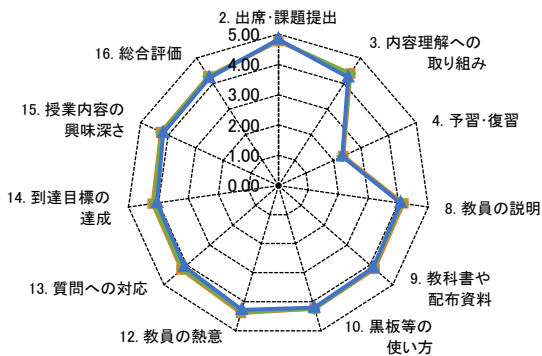
全体的に前期の科目の数値が減少傾向にある。前年度の課題として挙がっていた「教員の熱意」の他
また「質問への対応」「授業内容の興味深さ」の数値が下がっている点について課題である。授業内で
学生との双方向的な授業を実施するなど、教員と学生のコミュニケーションがより活発化するよう呼び
掛けていきたい。

学校教育学科 2025 年度授業改善アンケート結果のまとめ

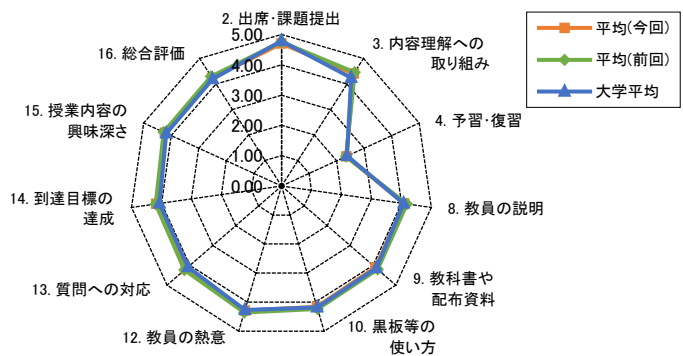
1. 概況

2025 年度前期および後期のアンケート項目について、学校教育学科の平均値と大学平均値を比較したレーダーチャートは以下のとおりである。

チャートの形状からは、学科と大学の平均値に大きな違いは見られず、同じような回答傾向であることがわかる。また、チャートの形状で目立つ点は、項目 4 の予習・復習（質問「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか」）で大きくスコアを落としているが、学科特有ではなく大学全体の課題と言えよう。



学科前期スコア



学科後期スコア

2. 設問ごとの学科と大学のスコアの比較

(1) 学科スコアが大学スコアを上回る項目

学科平均値が大学平均値を 0.10 ポイント以上上回る項目、すなわち大学に比して学科の結果がやや優れていると考えられる項目は、前期では 4 項目、後期では 2 項目であった。前期は、設問 3「積極的な取り組み」、設問 12「教員の熱意」、設問 13「質問への対応」、設問 14「到達目標への達成」であり、後期は、設問 3「積極的な取り組み」、設問 14「到達目標への達成」であった。特に、「積極的な取り組み」と「到達目標への達成」は前後期を通して大学平均を上回っており、学生が積極的に授業に取り組み、一定の学習成果を実感できていたと考えられる。また、前期においては「教員の熱意」や「質問への対応」についても大学平均を上回っており、授業者の取り組みについても一定の評価が得られたと考えられる。なお、ここでは大学平均を 0.10 ポイント以上上回る項目のみを取り上げ、僅差で上回るものは省略する。

○設問 3 あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。

(前期：大学 4.25／学科 4.40 後期：大学 4.25／学科 4.41)

○設問 14 あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

(前期：大学 4.10／学科 4.24 後期：大学 4.06／学科 4.17)

（２）学科スコアが大学スコアを下回る項目

一方、学科平均値が大学平均値を下回る項目はほぼなく、大学全体と比べるとより充実した授業が展開されていたことがうかがえる。

３．設問ごとの前年度とのスコアの比較

設問ごとの学科平均値を前年度（2024 年度）と比較したところ、前期・後期ともに大きな変化は見受けられず、全般的に前年度とほぼ同様の結果であった。このことから、前年度までの良好な状態を引き続き維持できていると捉えられる。また、2025 年度は新カリキュラムが２年生まで進行しており、そのような状況においても前年度と同程度の評価が得られていることから、新カリキュラムによる教育について一定の成果が示されていると考えられる。

４．今後の改善に向けて

第 1 に、多くのアンケート項目で学科平均値が大学平均値を上回っており、学科における教育活動が一定の水準を維持していることがうかがえる。2024 年度に実施したカリキュラム改訂では、授業科目の配当学期・学年の見直しを行っており、2025 年度は新カリキュラムが２年生まで進行した。こうしたカリキュラムの見直しも、現在の評価につながっている可能性がある。今後も現在の水準を維持しつつ、学科内で授業の実施状況や課題を共有し、継続的な授業改善に取り組んでいく必要がある。

第 2 に、大学全体の特徴でもあるが、予習・復習時間のスコアが低い点について、引き続き改善傾向が見られた。同設問の学科の回答数を詳細に見ると、前期・後期で類似した傾向で、3 時間以上が 7%・6%（前期・後期）、2 時間が 7%・8%、1 時間が 26%・28%、30 分以下が 31%・32%、まったくしないが 27%・26%であった。この結果から、授業外での学習時間については、依然として学生によるばらつきが大きく、学習時間が短い学生が多いことがわかる。一方で、「まったくしない」と回答した学生は前年度と比較して前期・後期ともに 3%程度減少しており、改善傾向が継続していると捉えられる。学科としての取り組みには一定の成果がみられるものの、依然として授業時間外の学習をほとんど行わない学生が一定数存在することから、引き続き授業時間外学習を促すための方策について検討を継続する必要があると考えられる。

以上

2025 年度・授業改善アンケートの結果に対する改善策

【1】授業に対する評価結果と課題

(1) 回答の概要

- 2年前から教養科目全体の評価は（ほとんどの設問で）大学全体の平均とほぼ一致しており、大学平均と0.1以上の差があったのは、前期の設問4「1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。」のみであった。
- 昨年度も課題に挙げていた「予習・復習にかける時間(設問4)」については、
大学前期平均：2.32 総合教育センター前期平均：2.19
大学後期平均：2.38 総合教育センター後期平均：2.32
との結果が得られている。前期は大学平均と差があったが、後期は改善している。

(2) 改善すべき課題

- 依然としてアンケート回答率が低く、改善が求められる。
大学後期回答率：60.6% 総合教育センター後期回答率：56.5
- 大学全体でも後期は回答率が5%以上も下がっており、全体的に後期で下がる傾向がみられる、この理由が総合教育センターの回答率低下と同じものであるかを明らかにすることも課題として挙げられる。
- 予習・復習時間の確保については教養科目全体として増加傾向にあり、後期は大学全体の平均と近い数値になっているが、この状況を継続させるために改善理由の把握等が必要である。

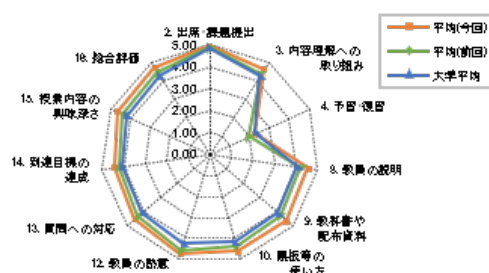
【2】課題に対する改善策

- 昨年度と同様に、アンケートの実施時期や方法について見直す。また、回答率が高くなるように、授業内での実施を促す。
- 予習・復習（授業時間外学修）時間の確保について、回答者が授業時間外学修に該当する学修を狭く考えている可能性がある。求める正しい情報を得るため、授業時間外学修の定義をはっきりと説明する。
- 総合教育センター主催で教育会議を開催し、授業時間外学修の時間を確保するための取り組みを各教員間で共有する。

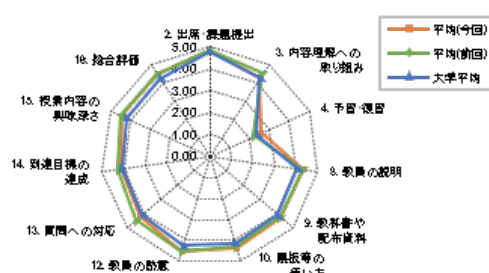
【3】その他の改善策

- 学生は学期内に多数のアンケートに答える必要があるため、「アンケート疲れ」によって回答が適当になることがある。学生の負担を軽減するため、アンケートの内容について見直す。また、効率よくアナウンスし、回答するためのシステム作りも考える。

2025 年度前期



2025 年度後期



1. 総括

教職センターでは、教育学、心理学、教科教育、特別支援教育等、教員免許状取得に関わる多様な科目を開講している。これらの科目では、教育現場で求められる専門的知識・技能の修得に加え、教育者としての資質・能力の育成を目的としており、理論と実践の往還を重視した授業を展開している。

2025 年度の授業改善アンケート結果を見ると、「予習・復習」を除くすべての主要項目において大学平均を上回る評価が得られた。特に、「教員の説明の分かりやすさ」「配布資料の有効性」「教員の熱意」「授業内容の興味深さ」「総合評価」などの項目では高い評価が維持されており、教職センター全体として質の高い授業運営が行われていることがうかがえる。

また、「授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思うか」の項目は、前期 4.60、後期 4.28 と大学平均を上回る結果となった。学生が主体的に授業へ参加し、教員との対話やグループワーク、模擬授業等を通して学びを深めていることが評価につながったものと考えられる。

さらに、総合評価は前期 4.70、後期 4.45 となり、いずれも大学平均（前期 4.22、後期 4.19）を大きく上回った。教職センターで実践している理論と実践を結び付けた授業や、教員による丁寧な学習支援が学生から高く評価された結果であると考えられる。

2. 評価できる点

2025 年度は、「教員の説明の分かりやすさ」「教科書や配布資料の有効性」「教員の熱意」「授業内容の興味深さ」などにおいて、前期・後期ともに 4.3～4.7 台の高い評価を維持した。特に前期では、「教員の熱意」が 4.74、「配布資料」が 4.67、「授業内容の興味深さ」が 4.64 という高水準であり、学生の学習意欲を引き出す授業実践が行われていることが示された。

また、クロス集計からは、「積極的に授業へ参加した学生」の総合評価が高いことが確認された。主体

的な学習姿勢が学習成果や授業満足度の向上につながっており、教職センターが重視する協働的な学びや対話的な授業実践の有効性が示唆されている。

加えて、「到達目標の達成」に関する評価も前期 4.41、後期 4.12 と大学平均を上回っており、学生が授業を通して教職に必要な知識・技能を身につけることができていると認識していることがうかがえる。

3. 課題

一方で、「予習・復習」の項目については、前期 2.27、後期 2.59 であり、後期は改善がみられるものの依然として高い水準には至っていない。回答分布を見ると、「30 分以下」および「全くしていない」と回答した学生の割合が一定数存在している。しかし、指導案を作成するなどの授業外の課題は行っている。そのため、さらに正確にアンケートに答えさせると共に、授業外学習時間の確保も課題といえる。

ただし、教職課程を履修する学生の多くは所属学科の専門科目と並行して教職科目を履修していることから、単純な学習時間の長短だけでなく、学習の質や内容にも着目する必要がある。今後は、授業外学習の意義や方法をより具体的に示しながら、学習習慣の定着を促していくことが求められる。

4. 今後の改善に向けて

教職センターでは、これまで実践してきた理論と実践を往還する授業を継続するとともに、模擬授業、グループワーク、教育現場との連携活動などをさらに充実させ、学生の主体的な学びを支援していく。

また、予習・復習については量的な増加だけでなく質の向上を重視し、学生が授業内容を振り返り、自らの学びを整理・深化できるような課題や学習機会の工夫を行う。さらに、教員間で授業改善に関する情報共有を進め、学生の意見や自由記述も参考にしながら、教職課程全体の教育の質向上に取り組んでいく。

教職センターは今後も、学生一人ひとりが教職への意欲を高め、教育者として必要な知識・技能・実践力を着実に身につけられるよう、授業改善を継続していく。

●医学教育センター

医学教育センターは主に医療科学部における基礎医学系科目（解剖学など）や臨床医学系科目（内科学など）を担当している。その中でも、同じ授業時間数で比較すると最も授業内容が多く、国家試験の出題率も高いと考えられる解剖学を学ぶ科目について主に比較した。該当年度では、千住キャンパス、東京西キャンパス共に授業の進行速度は『適切』と感じた学生が多く、『やや速い』を含めて千住キャンパスでは履修者の6～8割程度、東京西キャンパスでは回答率が低かったこともあり、履修者の3～7割程度であった。一方で、感じている難易度については、キャンパス間で異なり、千住キャンパスでは『やや難しい』～『とても難しい』を選択した学生が多く、履修者の5～8割を占めたが、東京西キャンパスでは『やや難しい』～『適切』を選択した学生が多く、履修者の2～6割であった。東京西キャンパスの回答率が低い影響はあるものの、千住キャンパスでは東京西キャンパスよりも、学生の感じる難易度が高い授業内容に設定している可能性もあり、1～2年次の授業内容の設定難易度や国家試験の合格率への影響について、今後両キャンパス間で検討していきたい。また、例年通りではあるが、千住キャンパスにおいては全ての解剖学系の科目において予習復習にける時間は大学平均よりも多い傾向にあり、各回1時間以上の時間外学習を行っている学生が履修者の5～8割程度、その中でも履修者の1割程度の学生は3時間以上の時間外学習を行っていた。千住キャンパスでは以前から『やや難しい』～『とても難しい』を選択する学生が多いと時間外学習を各回1時間以上行う学生が多い傾向にあったが、該当年度は特にその傾向が強いようであった。授業改善アンケート結果を含め、受講態度など、各学科教員と情報共有して進められるようになってきており、学生が難しいと感じながらも目標とする国家資格取得に向けて努力する姿勢が見られたと考えられることから、今後も各学科教員と協力して働きかけていきたい。一方で、東京西キャンパスでは時間外学習にける時間は大学平均以下の科目が多く、千住キャンパスとは意識の差が見られたが、難易度を上げることが時間外学習に繋がらないという可能性も大いにあるため、引き続き授業改善を行い、学科教員と協力して学生の意欲を引き出していきたい。また、医学教育センター教員の解剖学以外の担当科目では、時間外学習が大学平均から大きく外れることはなかったため、引き続き、分かりやすく、興味を持って学生が授業に臨めるような授業展開をこころがけたい。

<まとめ（学生の皆さんへ）>

学生の皆さんが国家資格を取得するために習得すべき内容が決まっている中で、授業改善アンケートの結果を参考にしながら、できるだけ皆さんが興味を持って学修できる講義をするよう努めています。より分かりやすくなるよう改善を続けていますが、上位学年であれば下位学年で習得すべき内容をしっかり勉強できていないと、理解はかなり困難になります。そのため、学生の皆さん自身が予習復習等の授業外での学習を行うこと、授業を集中して聞き、できるだけ授業内に理解すること、授業内で理解できなかったことは放置しないでできるだけ早めに質問し解決すること、を心がけた姿勢を取ることが効果的な授業に繋がります。お互いに有益な時間を過ごせるよう、一緒に改善していきましょう。また、授業内に理解できたと感じる場合は、授業の内容を超えた、更に難しい内容も意欲的に学習することをおすすめします。医学教育センターには皆さんの取得予定の国家資格とは異なる専門資格を持つ教員が多くいます。臨床に出た後には、分野の異なる専門職に気軽に質問できる環境は多くありません。大学在籍中に多くの疑問を持ち、積極的に質問する姿勢が取れるよう、心がけていきましょう。